

令和5年(2023)5月1日現在

指定区分や名称の変更があった文化財

ページ	旧	新
P31	国指定記念物 (天然記念物・史跡)城山	国指定記念物(天然記念物)城山 国指定記念物(史跡)鹿児島城跡
P70	県指定記念物(史跡)鶴丸城跡	国指定記念物(史跡)鹿児島城跡
P71	県指定記念物(史跡) 福昌寺跡	国指定記念物(史跡) 鹿児島島津家墓所 (令和2年3月10日指定)
P137	市指定記念物(史跡) 祇園之洲砲台跡	県指定記念物(史跡) 祇園之洲台場跡 (令和4年4月26日指定)
P182 ～P184	国登録有形文化財(建造物) 児玉家住宅主屋・井戸屋・表門	解体により登録抹消

新たに指定された文化財

・県指定文化財


名称	出水貝塚出土品 附 書簡 (いずみかいづかしゅつどひん つけたり しょかん)
区分	県指定有形文化財(考古資料)
指定年月日	令和3年4月23日
所在地	鹿児島女子短期大学
所有者	鹿児島県、出水市、個人
概要・写真	http://www.pref.kagoshima.jp/ba08/documents/72943_20220518152709-1.pdf (鹿児島県ホームページへリンク)

名称	大隅石(オオスマライト)標本 (おおすみらいとひょうほん)
区分	県指定記念物(天然記念物・地質鉱物)
指定年月日	令和3年4月23日
所在地	鹿児島県立博物館

所有者	鹿児島県
概要・写真	http://www.pref.kagoshima.jp/ba08/documents/73025_20210519171355-1.pdf （鹿児島県ホームページへリンク）

・市指定文化財

名称	清泉寺跡(せいせんじあと)
区分	市指定記念物(史跡)
指定年月日	令和4年4月21日
所在地	鹿児島市下福元町
所有者	個人
概要	<p>清泉寺跡は、中世前期に創建され、15世紀前期に川辺寶福寺の末寺として再興された。それ以降、曹洞宗寺院として明治2年(1869)廃仏毀釈により廃寺になるまで、数多くの石造物が造られ続けており、その後の若干の改変はあるものの、廃寺の時点の様子をかなり良好な状態で残している。</p> <p>また、元禄14年(1701)に建立されたとされる島津大和守久章墓の五輪塔は、県下最大規模のものであるとともに、新城島津家との関係を示す遺物も発掘調査で確認されている。</p>
写真	

名称	安藤照作 西郷隆盛銅像 (あんどうてるさく さいごうたかもりどうぞう)
区分	市指定有形文化財(彫刻)
制作年	昭和 12 年(1937)
指定年月日	令和 4 年 4 月 21 日
所在地	鹿児島市城山町
所有者	鹿児島市
概要	<p>安藤照は、明治 25 年(1892)に鹿児島市で生まれた。鹿児島二中を経て、東京美術学校彫刻科に入学、在学中に帝国美術院展覧会に入選、その後も連続して特選になるなど、目覚ましい活躍をした。</p> <p>美術学校で師事した朝倉文夫の影響を受け、写実的な表現を身につけるが、やがて塊人社を結成し、彫刻を「量のかたまり」としてとらえ、量感の表現の追及へと進むようになる。</p> <p>恰幅の良い西郷の体型を、大将の軍服姿で表現した安藤照の「西郷隆盛像」は、体型の似たモデルを用いたとされ、写実的人体表現を基本としながら、鹿児島における西郷隆盛観を象徴的に表現した作品といえる。</p> <p>6 メートル近い像の制作は、相当な大事業であったと推察でき、安藤の力量の限りを尽くした傑作であり、安藤の代表作ともいえる。未来を見据えるかのような正面向きの顔、揺るぎない不動の立ち姿の西郷像は、市井の人々の精神的な拠所として確固たる存在感を示している。</p>
写真	

名称	新納忠之介作 西王母像 (にいろちゅうのすけさく せいおうぼぞう)
区分	市指定有形文化財(彫刻)
制作年	昭和 17 年(1942)
指定年月日	令和 5 年 4 月 17 日
所在地	鹿児島市城山町 鹿児島市立美術館
所有者	鹿児島市
概要	<p>作者の新納忠之介は、明治元年(1868)に鹿児島市新照院町で生まれ、東京美術学校(現:東京藝術大学)を卒業後、同校の助教授となる。</p> <p>師の岡倉天心とともに東京美術学校を追われた後は、奈良の日本美術院(現:美術院国宝修理所)で国宝調査や修復事業に努めた。明治 29 年から昭和 21 年までの 48 年間、修理した仏像や神像は 2,631 点に上る。</p> <p>本作品は、新納忠之介の貴重なオリジナル作品の一つである。左足をやや前方に出して立ち、緩やかに体軀を回転させる流麗なムーブメントを持つ構成は、彫刻家・新納としての挑戦的な姿勢が感じられる。極彩色に着色された衣装の表現は、細部に至るまで丁寧に仕上げられ、究極のリアリズムを追求しつつ、神格化された女神のたおやかさと品格が備わった作品に仕上がっている。</p>
写真	

名称	新納忠之介作 西王母 (にいろちゅうのすけさく せいおうぼ)
区分	市指定有形文化財(彫刻)
制作年	昭和 25 年(1950)
指定年月日	令和 5 年 4 月 17 日
所在地	鹿児島市城山町 鹿児島市立美術館
所有者	鹿児島市
概要	<p>修復家として活躍した新納忠之介の貴重な晩年のオリジナル作品で、永年の仏像修復の経験から得た、木彫や彩色技術が見事に結実した格調高い作品である。シンメトリーの立ち姿で表現され、女神らしいふくよかさと威厳が感じられる。持物の桃(右手)と青鳥の羽(左手)は、吉祥の到来を予感させるように、正面性を生かした存在感を見せており、像本体と絶妙な調和をなしている。「修復師・新納」が「彫刻家・新納」としての力量をも裏付けた傑作といえる。</p>
写真	